

市・警察との3者間で 地域見守り協定を締結

館林市一般廃棄物処理事業(協)

12月23日、館林市及び館林警察署との3者間で、地域の見守り活動とドライブレコーダー映像情報の提供等に関する協定を締結した。

組合員7社のパッカー車約30台に、「地域安全パトロール」のステッカーを貼り付けて家庭ごみの収集運搬を行うことで、犯罪抑止につなげるとともに、営業車などを含む約100台に搭載したドライブレコーダーの映像を、警察の求めに応じて提供する。

横田一夫理事長は「防犯効果を高めるよう、ステッカーを目立つデザインにした。週6日、収集車は決まった時間に同じ場所を通るので、直接事件事故を映していない場合でも捜査の役に立てる可能性がある。こうした取組みは県内で2例目だそう。地域貢献につながる良い取組みなので、他の地域にも広がってほしい」と語った。



横田理事長(左)と多田善洋市長(中)・小林哲也署長(右)



目立つ色彩のステッカーが見守り効果を高める

地域の安全を守るために街の 家電店ができることを学ぶ

群馬県電機(商)

1月15日、渋川市・ホテル木暮において、「街の電機屋が取り組む見守り安全隊としての活動」と題し、講習会を開催した。講師は、群馬県警生活安全課・篠崎耕策氏。

篠崎氏は特殊詐欺の定義を説明し、手口や動向を紹介。見抜くためには、相手の電話番号や振込先の口座情報を検索することが重要と強調した。

それに関連して、NTTでは70歳以上の住人がいる場合、ナンバーディスプレイやナンバーリクエスト(非通知の着信を拒否)の利用が無償化しているので、顧客への周知を呼びかけた。



この他、回線切り替えや不用品回収と名乗り、訪問するタイプの犯罪も増えてきており、防犯カメラや監視カメラの重要性が高まっていると述べた。



顧客を守るため防犯への理解を深めた

連合会の将来のあるべき姿を 探る調査研究開始

群馬県食肉事業(協)連合会

1月16日、前橋市・前橋市総合福祉会館において、連合会の将来あるべき姿を研究するための委員会を開催した。近年の会員減少を受け、連合会の事業活動などを再構築することが目的。

第1回目となる今回は、会員組合に所属する企業への調査につき、設問内容や実施方法を検討。全所属企業向けの郵送調査と並行して、協力を得られる企業に対して中小企業診断士によるヒアリング調査を実施することを決定した。

3月頃までに本調査の集計・分析を行い、それを基礎資料として、4月以降に具体的な方向性につき検討を進めていく予定。



会員に加え専門家や中央会もオブザーバーとして出席

Local Area News

桐生織物求評会にて来場者投票を実施 桐生織物(協)

1月24日・1月25日の両日、桐生市・桐生織物記念館において、桐生産地の個性豊かな製品を一堂に発表する桐生織物求評会を開催し、14の組合員がきものや帯、服飾工芸品など244点を展示した。

初日には来場者投票を実施し、色・柄・質感・風合い・新鮮さの5項目において優れている作品を選んでもらい、最終日に結果を発表、後日表彰した。組合員にとって年に一度の求評会は、受賞を目指して革新的な技法やデザインに挑戦するモチベーションになっている。

昨年まで東京都で開催していたが、地元の人にも桐生織物の良さを知ってもらいたい思いから、27年ぶりに地元で開催。約300人が来場し、職人の技が光るこだわりの製品を間近で楽しんだ。



帯の展示室にて投票する来場者

旅館と宿泊者を守る“宿泊約款”の改定点を学ぶ

水上温泉旅館(協)

1月26日、みなかみ町・源泉湯の宿松乃井にて、「カスハラから旅館を守る宿泊約款とは？」

をテーマに講習会を開催。講師は弁護士法人横浜パートナー法律事務所・弁護士佐山洸二郎氏。

旅館業法、障害者差別解消法の改正を受け、観光庁がモデル宿泊約款を改定したことに伴い、各施設においても実情にあわせて修正することが望ましいと説明。

特に、今まで原則禁止だった施設側の宿泊拒否の部分において、拒否してもよい範囲が示されたことは画期的な改正点であると強調した。

最後に「宿泊約款＝宿泊契約。整備しておけば、いざという時施設を守る大きな盾になる。この機に見直してみしてほしい」と述べた。



真剣に耳を傾ける参加者

円滑な企業活動のための与信管理を学ぶ

群馬県蒟蒻原料商工業(協)

1月30日、高崎市・ホテルメトロポリタン高崎において、「与信管理」をテーマに講習会を開催した。講師は、株式会社インソースの富岡淳氏。

与信管理とは、①怪しい会社を見抜き、売上の不良債権化を防ぐこと、②売掛金をスケジュールどおり現金化する段取りをつけることであると定義を説明。企業活動を円滑にするためには与信管理が重要であり、不良債権化や入金遅延のリスクは、原則未然防止が鉄則であると述べ、与信管理の目的や流れについて解説した。

参加者は個人ワークやグループワークを通して、商取引の基本や取引先の会社の見方、財務諸表の見るべきポイント等について学習した。



熱心なグループワークの様子